

2027年国際園芸博覧会 サステナビリティ教育計画



2025 年 3 月策定

2026 年 9 月更新

公益社団法人 2027 年国際園芸博覧会協会

目次

- 1 はじめに 1
 - 1.1 目的 1
 - 1.2 対象者 1
- 2 実施計画 2
 - 2.1 アクション 2
 - 2.2 ガントチャート 12
- 3 評価 13

1 はじめに

公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会（以下「協会」という。）は、2027年国際園芸博覧会（以下「本園芸博」という。）の開催に必要な事業及びその方針を示した「2027年国際園芸博覧会基本計画（以下「基本計画」という。）」を2023年1月に策定し、本園芸博のテーマを「幸せを創る明日の風景」としている。

また、国際園芸家協会（以下「AIPH」という。）の規則等に基づき、サステナブルな国際園芸博覧会を実現するため、基本方針や目標等を定めた「サステナビリティ戦略（以下「戦略」という。）」と、戦略を実現するためのアクションや実施スケジュール等を定めた「サステナビリティ実施計画」を2024年3月に策定し、AIPHに提出した。

協会は、基本計画や戦略、実施計画等で検討した内容を踏まえ、「サステナビリティ教育計画（以下「教育計画」という。）」を2025年3月に策定し、2026年9月に更新した。

なお、協会では、環境や人権、労働等の専門家で構成する「持続可能性有識者委員会」において、サステナビリティ戦略、実施計画、教育計画、サステナビリティコミュニケーション・エンゲージメント計画（以下「C&E計画」という。）等の検討を行った。有識者委員会の資料については、協会のウェブサイト（<https://expo2027yokohama.or.jp/>）で公表している。

教育計画の策定に当たり、AIPHの要求事項である、教育計画の目的、対象者、AIPHが特に重視する対象者に対するアクションについて、以下の通り記載する。

1.1 目的

教育計画は、本園芸博の準備、開催運営等を通じ、全てのステークホルダーに対して、サステナビリティに関する意識向上や学習を促進することを目的とする。

1.2 対象者

教育計画では、サステナビリティ実施計画で設定した、本園芸博の成功に重要な役割を果たすステークホルダーである、「来場者」、「出展者等」、「ボランティア」、「市民・地域社会」、「NPO・NGO」、「事業者」、「有識者等」、「政府・自治体」、「協会職員・運営スタッフ等」の9つから対象者を設定する。

AIPHが特に重視する4つの対象者である、「来場者」、「建設・施設管理者」、「国内外のスタッフ」、「ボランティア」に対しては、以下のようなアクションを実施する。

「来場者」に対しては、主催者展示、公式参加者（国・国際機関）の出展、花・緑出展、Village出展等を通じた情報発信等のアクションを実施する。

「建設・施設管理者」に対しては、工事、アクセシビリティ等のガイドラインの策定・推進等のアクションを実施する。「建設・施設管理者」は、対象者のうち、「出展者等」、「事業者」、「協会職員・運営スタッフ等」が該当する。

「国内外のスタッフ」に対しては、ISO20121（イベント・サステナビリティマネジメントシステム（ESMS）の国際規格）の認証取得・運用、協会職員への研修の実施等のアクションを実施する。「国内外のスタッフ」は、対象者のうち、「協会職員・運営スタッフ等」が該当する。

「ボランティア」に対しては、ISO20121の認証取得・運用等のアクションを実施する。

2 実施計画

2.1 アクション

サステナビリティ実施計画では、戦略で設定した各目標を実現するためのアクションを記載した。このサステナビリティ実施計画に記載した目標・アクションのうち、サステナビリティ教育に関する目標・アクションと、教育計画の策定及び更新に伴う追加的なアクションを含めた計30のアクションを記載する。

各アクションについて、実施目的、責任者、方法、メッセージ、主な対象者、対象人数、タイムライン（頻度・時期）を記載する。

記載項目	概要
実施目的	アクションの実施目的
責任者	アクションを実施する責任者
方法	アクションの実施方法
メッセージ	アクションを通じて主な対象者に発信するメッセージ
主な対象者	アクションの主な対象者
対象人数	定義した対象者の人数
タイムライン（頻度・時期）	アクションを実施する頻度や時期等のタイムライン

目標	ID	アクション	実施目的	責任者	方法	メッセージ	主な対象者	対象人数	タイムライン (頻度・時期)	更新
水消費量の削減	2-1-2	漏水消費量の削減対策の実施	漏水消費量の削減対策の実施を通じ、関係者の環境意識を向上させる	協会、出展者等	多様なステークホルダーに対する削減対策の実施の促進	漏水消費量の削減対策の実施により、サステナブルな園芸博を実現する	(建設・施設管理者) 出展者等、事業者、協会職員・運営スタッフ等	未算定	・準備、開催、撤去の各期間に対策を実施	
脱炭素化に向けた温室効果ガスの排出削減	3-1-2	温室効果ガスの削減対策の実施	温室効果ガスの削減対策の実施を通じ、関係者の環境意識を向上させる	協会、出展者等、事業者	多様なステークホルダーに対する削減対策の実施の促進	温室効果ガスの削減対策の実施により、サステナブルな園芸博を実現する	(建設・施設管理者) 出展者等、事業者、協会職員・運営スタッフ等	未算定	・サステナビリティ戦略・実施計画を策定：2024年3月 ・準備、開催、撤去の各期間に対策を実施	
省エネ型の設備の導入	4-2-2	エネルギー使用量の削減対策の実施	エネルギー使用量の削減対策の実施を通じ、関係者の環境意識を向上させる	協会、出展者等、事業者	多様なステークホルダーに対する削減対策の実施の促進	エネルギー使用量の削減対策の実施により、サステナブルな園芸博を実現する	(建設・施設管理者) 出展者等、事業者、協会職員・運営スタッフ等	未算定	・サステナビリティ戦略・実施計画を策定：2024年3月 ・準備、開催、撤去の各期間に対策を実施	
周辺環境への影響の低減	5-1-2	工事に係るガイドライン等の策定・推進	環境影響評価の実施結果等を踏まえ、工事に係るガイドライン等を策定し、周辺環境への影響を低減させる	協会	環境影響評価の実施結果等を踏まえ、工事に係るガイドライン等を策定し、工事関係者に対して周知	工事に係る周辺環境への影響を低減する	(建設・施設管理者) 出展者等、事業者、協会職員・運営スタッフ等	未算定	・ガイドラインの策定：2025年度 ・準備、撤去の各期間にガイドラインに基づき対策を実施	
持続可能性に配慮した建設資材の調達	7-3-3	持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用	本園芸博の開催のために必要な物品・サービス・工事等について、持続可能性に配慮した調達を行う	協会、出展者等、事業者	調達コードを策定し、協会や出展者等の調達の際に遵守を義務付け、説明会等での周知・普及等を実施	調達コードの遵守をサプライヤー、出展者等の関係者との共同の取組として推進するとともに、調達コードが本園芸博のレガシーとして、社会に持続可能性への配慮が広がるように働きかける	出展者等、事業者、政府・自治体、協会職員・運営スタッフ等	未算定	・調達コードの策定、運用の開始：2024年1月 ・通報受付窓口の設置：2024年10月頃	

目標	ID	アクション	実施目的	責任者	方法	メッセージ	主な対象者	対象人数	タイムライン (頻度・時期)	更新
会場計画へのユニバーサルデザインの導入	9-3-1	アクセシビリティ・ガイドラインの策定・推進	全ての人が安全・快適に過ごせるように配慮した計画・整備を行うため、ガイドラインを策定・推進する	協会	アクセシビリティ・ガイドラインを策定し、ガイドラインに沿って計画・整備・運用を実施	全ての人が安全・快適に過ごせるように配慮した園芸博を実現する	(建設・施設管理者) 出展者等、事業者、協会職員・運営スタッフ等	未算定	・検討会の開催、アクセシビリティ・ガイドラインの策定：2024年度 ・準備、開催期間中に、ガイドラインに沿って計画・整備・運用を行う	
海外からの参加者（公式参加者）に向けた情報提供	10-1-3	海外からの参加者（公式参加者）への各種規則・ガイドライン等の策定・周知	各種規則・ガイドライン等を策定し、本園芸博の趣旨や、展示・出展・コンペティション、各種申請や手続き、サプライヤー等に関する情報を共有する	協会	公式参加者向けウェブページ等を用いた情報提供	人と自然が共生する未来社会の在り方として「日本モデル」を提示し、本園芸博の開催意義を共有する	出展者等（公式参加者）	70程度の国・国際機関	・各種規則・ガイドライン等の策定・周知：2022年～	
食品ロスの削減の推進	11-1-2	飲食に関するガイドライン等の策定・推進	ガイドライン等を策定し、食品ロスの削減等を図り、環境負荷の低減やサステナビリティに配慮した運営を行う	協会	ガイドラインを策定し、来場者や出展者等に周知する	ガイドライン等の策定により、サステナブルな園芸博を実現する	来場者、出展者等、事業者、協会職員・運営スタッフ等	有料来場者数：1,000万人以上	・ガイドライン等の策定：2026年度 ・準備、開催期間中に来場者等に周知 ・開催期間中に来場者に呼びかけ	○
ESMS（イベント・サステナビリティマネジメントシステム）の構築	11-3-3	ISO20121の認証取得・運用	ISO20121の認証取得・運用により、サステナブルなイベントの運営を実現する	協会	ESMSの関係資料を作成し、協会職員や出展者等に周知	ISO20121の認証取得・運用により、サステナブルな園芸博を実現する	出展者等、ボランティア、事業者、協会職員・運営スタッフ等	未算定	・ISO20121の審査機関からの認証取得・運用：2026年度～	
(追加)	add-0-1	協会職員への研修の実施	協会職員に対して、サステナビリティを含む研修を実施し、意識を向上させる	協会	研修の実施	サステナビリティを含む研修を実施し、意識を向上させる	(建設・施設管理者) 協会職員	未算定	・転入者研修：職員着任時等 ・テーマ別研修：随時	

目標	ID	アクション	実施目的	責任者	方法	メッセージ	主な対象者	対象人数	タイムライン (頻度・時期)	更新
(追加)	add-0-2	資源循環の取組の推進	「循環経済（サーキュラーエコノミー）」の視点を踏まえ、未来社会を見据えたGREEN×EXPO 2027の名にふさわしい取組を推進する	協会	「GREEN サーキュラー建築」の推進や、再生可能な植物資源の活用など素材使用方針の設定、分別・3Rの徹底等を推進	資源循環の関係対策の実施により、サステナブルな園芸博を実現する	来場者、ボランティア、市民・地域社会、政府・自治体（建設・施設管理者）出展者等、事業者、協会職員・運営スタッフ等	有料来場者数：1,000万人以上	・サステナビリティ戦略・実施計画を策定：2024年3月 ・資源循環の考え方を策定：2025年3月 ・準備、開催、撤去の各期間に対策を実施	○
(追加)	add-0-11	開催1000日前イベントの実施	国内外の多くの方に参加・参画いただき、一人ひとりの市民が多様に参加・参画し、ともに創り上げる園芸博を目指していくためのキックオフとする	協会	ワークショップやステージイベント、展示等のプログラムの実施	市民参加のキックオフ！ “幸せを創る明日の風景”を共に描く2days	来場者、出展者等、市民・地域社会	来場者数：約3万人	・イベント実施：2024年6月22～23日	
(追加)	add-0-12	県立横浜瀬谷高等学校等による「フラワーロードプロジェクト」との連携	横浜瀬谷高校の生徒等が、市民参加の活動として関係団体と協力し、瀬谷駅前から本園芸博会場までの道路1.5キロメートルに花を植栽する「フラワーロードプロジェクト」を実施し、機運を醸成する	市民・地域社会	瀬谷駅前から本園芸博会場までの道路に花を植栽	瀬谷に花を咲かせよう！ GREEN×EXPO 2027につなげよう！	市民・地域社会（学生・教職員等）	第5回プロジェクト参加者数：約250人	・第5回プロジェクト：2023年12月10日	
(追加)	add-0-13	県立農業高校との共創プロジェクト「GREEN LEADERSHIP CLUB」の推進	花や緑、農・食の未来を牽引する次世代のリーダーの育成を目指し、本園芸博について学び、積極的に参加できる場として活動する	協会、市民・地域社会	本園芸博のテーマなどを学び、企画案を考えるなどの活動を実施	神奈川県立の農業高校5校の生徒による未来のための共創プロジェクト	市民・地域社会（学生・教職員等）	高校生メンバー：49人	・CLUBの立ち上げ：2023年12月8日 ・プレゼン発表会の開催：2024年6月17日 ・今後の活動：～開催期間	

目標	ID	アクション	実施目的	責任者	方法	メッセージ	主な対象者	対象人数	タイムライン (頻度・時期)	更新
(追加)	add-0-14	ヨコハマ未来創造会議との連携	本園芸博の開催を契機に、次世代を担う若者が環境にやさしい生活や社会を目指して議論し、アクションを起こすきっかけをつくり、GREEN×EXPO 2027での発信と新たなグリーン社会の実現を目指す	政府・自治体	ヨコハマ未来創造会議との連携	次世代を担う若者とともにGREEN×EXPO 2027を創り、その感性とアイデアを未来の横浜に繋げる	市民・地域社会（学生・若者世代等）	ヨコハマ未来創造会議メンバー：約120人	・キックオフイベントの開催：2023年12月10日 ・本格始動フラッグアップイベントの開催：2024年7月30日 ・中間発表会の開催：2024年10月8日 ・ワークショップの開催：月1回	
(追加)	add-0-15	大学共創フォーラムの開催	本園芸博の目指すビジョンや共創の姿を全国の大学関係者と共有し、出展等の大学の参加・連携、学生の参加等について、理解いただく	協会	オンラインによるフォーラムの開催	フォーラムを契機として、出展等大学の参加・連携、学生の参加等につなげる	市民・地域社会（学生・教職員等）	未算定	・フォーラムの開催：2024年5月31日、6月5日	
(追加)	add-0-16	教育プログラム コンセプトブックの活用	本園芸博が児童・生徒の探究学習の場として、相応しい場であることの認識が深まり、今後の教育旅行・体験学習の場として選択される	協会	国内各教育委員会への発信、公式ウェブサイトへの掲載、その他PR活動などにより学校現場での活用を促進	本園芸博は、子どもたちの自ら考える力や想像力を育み、新たな価値観、行動変容のきっかけとなることを目指す	来場者、市民・地域社会（児童・生徒・教職員等）	未算定	・コンセプトブックの公表：2024年11月 ・コンセプトブックの活用：～開催期間	
(追加)	add-0-19	主催者展示を通じた情報発信	一人ひとりが自然との共生の重要性に気づき、「自分にとっての自然とのつながり方」を発見し、意識変容・行動変容のきっかけとなる展示体験を創出する	協会	主催者展示・行事等を通じた情報発信・体験提供	本園芸博のテーマを展示や行事等で表現する	来場者	有料来場者数：1,000万人以上	・開催期間に主催者展示を通じた情報発信を実施	
(追加)	add-0-20	公式参加者（国・国際機関）の出展を通じた情報発信	世界各国や国際機関等による出展により、世界の多様な園芸文化、食農文化、環境施策等を発信する	協会、出展者等（公式参加者）	公式参加者の出展やナショナルデー・スペシャルデー等を通じた情報発信	各国・組織の様々な分野での技術や文化、知識を披露し、花き・造園産業、食や農、環境に係る取組等の発展に寄与する	来場者	有料来場者数：1,000万人以上	・開催期間に公式参加者の出展を通じた情報発信を実施	

目標	ID	アクション	実施目的	責任者	方法	メッセージ	主な対象者	対象人数	タイムライン (頻度・時期)	更新
(追加)	add-0-21	花・緑出展を通じた情報発信	出展者の庭園作品や生 産品を展示し、コンペ ティションにより技術 や魅力を世界へ発信す る	協会、 出展者等	花・緑出展やコ ンペティション 等を通じた情報 発信	日本の園芸の技 術や魅力を世界 へ発信する	来場者	有料来場 者数： 1,000 万 人以上	・開催期間に 花・緑出展を 通じた情報発 信を実施	
(追加)	add-0-22	Village 出展を通じた情報発信	GREEN の力と産業活 動が融合した姿を示 し、本園芸博のテーマ である「幸せを創る明 日の風景」を創出する	協会、 出展者等	Village 出展を通 じた情報発信	GREEN の力と 産業活動が融合 した姿を示す	来場者	有料来場 者数： 1,000 万 人以上	・開催期間に Village 出展 を通じた情報 発信を実施	
(追加)	add-0-23	グリーンインフラの情報発信	グリーンインフラの実 装により、生物多様性 が保全された、自然と 共生し、安全・快適な 空間を形成し、多様な 活動を支える空間モデ ル及びその連携を提示 する	協会	グリーンインフ ラの情報発信	自然と共生し、 安全・快適な空 間を形成する	来場者	有料来場 者数： 1,000 万 人以上	・開催期間にグ リーンインフ ラの情報発信 を実施	
(追加)	add-1-1	ネイチャーポジティブの実 現に向けた取 組に関する情 報発信	開催地周辺の豊かな自 然環境を活用した取組 や、自然との共生の在 り方を発信すること により、意識変容・行動 変容を促すことで、ネ イチャーポジティブの 実現を図る	協会、出 展者等	ネイチャーポジ ティブの実現に 向けた取組に関 する情報発信	ネイチャーポジ ティブ社会の実 現を呼びかける	全てのステ ークホルダー	未算定	・準備、開催期 間に情報発信 を実施	○
(追加)	add-1-2	参加ガイドラ インの策定・ 推進	主に公式参加者を対象 として、博覧会運営関 連業務の詳細な作業手 順・基準・各種申請手 続きの内容を定め、参 加者に示す。	協会	・Web ページの 公開 ・対面・オンラ イン説明会	主に公式参加者 に対して、出展 準備を具体的に 進めるにあたっ て必要な各テ ーマ（保険、商業 活動等）に応じ た規制、国内ル ール・手続き等 に関する情報を 順次提供する。	出展者、事 業者等 ※各種ガイ ドラインごと に対象が異 なる	未算定	・各種ガイドラ インの進捗に 応じ、会期ま で随時発出。	○
(追加)	add-1-3	廃棄物の適正 処理等に関す るガイドライ ンの策定・周 知	廃棄物に関する各種法 令等を遵守し、適正に 処理するとともに、 3R を推進し資源循環 を行う	協会	ガイドラインを 策定し、参加 者、出展者等に 周知する	ガイドラインの 策定により、サ ステナブルな園 芸博を実現する	出展者、事 業者等	未算定	・ガイドライン の策定・周 知：2026 年 度	○

目標	ID	アクション	実施目的	責任者	方法	メッセージ	主な対象者	対象人数	タイムライン (頻度・時期)	更新
(追加)	add-1-4	ボランティア・運営スタッフに向けた研修	①基礎研修 GREEN×EXPO 2027の理念・テーマ・会場概要などの研修を実施し、「一人ひとりがGREEN×EXPOの顔」という当事者意識を醸成する ②接遇・アクセシビリティ研修 アクセシビリティの基礎研修と実地研修を実施し、意識向上と来場者への対応向上を図る	①協会 ②協会、事業者	研修実施（対面、オンライン、オンデマンド）	①「一人ひとりがGREEN×EXPOの顔」という当事者意識を醸成し、サステナビリティの意識向上を図る ②アクセシビリティに対する意識向上を図る	①ボランティア・協会職員・運営スタッフ ②基礎研修は同上 専門研修は上記リーダー層を対象とする	①スタッフ：1.6万人 ②基礎研修：スタッフ1.6万人 専門研修：3,000人前後	・主に2026年7月～2027年3月の期間で随時	○
(追加)	add-1-5	テーマ催事を通じた情報発信	省庁等と連携の上、「幸せを創る明日の風景」及びサブテーマである「自然との調和」「緑や農による共存」「新産業の創出」「連携による解決」に向け、テーマ催事等を実施する。	協会、省庁等	テーマ催事等を通じた発信	園芸博のテーマ及びサブテーマに向けて、様々な社会課題解決へのチャレンジを博覧会という場と手法で取り組む	来場者	有料来場者数：1,000万人以上	・開催期間にテーマ催事を通じた情報発信を実施	○
(追加)	add-1-6	ダイバーシティ&インクルージョンに関する情報発信	園芸博のテーマ実現に向けた多様性の尊重、多様な人材の知見や参画を活かした取組	協会、省庁等	イベント実施	ジェンダー平等・女性活躍への取組の重要性と推進の必要性、認知拡大。大阪・関西万博のレガシーを継承し、社会での実装に繋げる	市民・地域社会、有識者等、政府・自治体	未算定	・会期前：2026年3月の「国際女性デー」にあわせたイベントの他、国際的なイベントの実施 ・会期中：イベント実施	○
(追加)	add-1-7	市民参加（共創）プログラム	参加する来場者に対して、地球・環境について共に考える機会を提供し、地球・環境の様々な課題に自発的に取り組む「環共市民」を育て、意識・行動変容を促す。	協会	研修の実施 参加者交流会 プログラム実施	環共市民を浸透することにより、未来の世代や生命と共存できる社会の創造を図る	来場者、団体、個人、企業、学校等	400団体程度	・研修：2026年下期 全5回 ・交流会：2026年下期 1日 ・プログラム実施：会期中 400プログラム想定	○

目標	ID	アクション	実施目的	責任者	方法	メッセージ	主な対象者	対象 人数	タイムライン (頻度・時期)	更新
(追加)	add-1-8	オンライン学習プログラム	ネイチャーポジティブ、サーキュラーエコノミー、園芸分野などをテーマに、会期前・会期中・会期後に連続した体験学習プログラムを展開し、人類と地球の課題解決に向けた取組を発信する。	協会	オンラインによる発信	博覧会スタッフやボランティアなどの研修などにも活用する	全てのステークホルダー	地域連携や ICT の活用などで参加が見込まれる 500 万人に寄与することを目指す	・2026 年 8 月頃 ページックコンテンツの配信 ・以降、順次、スペシャルコンテンツの配信	○

※目標：実施計画に記載した目標・アクションのうち、サステナビリティ教育に関する目標・アクションを記載。教育計画の策定時及び更新時における追加的なアクションを「追加」として記載。

※ID：実施計画に記載のアクション ID と連動。add-x-xx は、C&E 計画と連動。

各アクションについて、どのステークホルダーを主な対象者としているかを明確にするため、表で記載する。前述したアクションの表の「主な対象者」に記載した対象者について、以下の表に「○」を記載している。

なお、教育計画では、全てのステークホルダーに対して、サステナビリティに関する意識向上や学習を促進するが、ここでは「主な対象者」のターゲットを明確にするため、「○」を絞って記載している。

ID	アクション	主な対象者								
		来場者	出展者等	ボランティア	市民・地域社会	NPO・NGO	事業者	有識者等	政府・自治体	協会職員・運営スタッフ等
2-1-2	漏水消費量の削減対策の実施	—	○	—	—	—	○	—	—	○
3-1-2	温室効果ガスの削減対策の実施	—	○	—	—	—	○	—	—	○
4-2-2	エネルギー使用量の削減対策の実施	—	○	—	—	—	○	—	—	○
5-1-2	工事にに関するガイドライン等の策定・推進	—	○	—	—	—	○	—	—	○
7-3-3	持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用	—	○	—	—	—	○	—	○	○
9-3-1	アクセシビリティ・ガイドラインの策定・推進	—	○	—	—	—	○	—	—	○
10-1-3	海外からの参加者（公式参加者）への各種規則・ガイドライン等の策定・周知	—	○	—	—	—	—	—	—	—
11-1-2	飲食に関するガイドライン等の策定・推進	○	○	—	—	—	○	—	—	○
11-3-3	ISO20121 の認証取得・運用	—	○	○	—	—	○	—	—	○
add-0-1	協会職員への研修の実施	—	—	—	—	—	—	—	—	○
add-0-2	資源循環の取組の推進	○	○	○	○	—	○	—	○	○
add-0-11	開催 1000 日前イベントの実施	○	○	—	○	—	—	—	—	—
add-0-12	県立横浜瀬谷高等学校等による「フラワーロードプロジェクト」との連携	—	—	—	○	—	—	—	—	—
add-0-13	県立農業高校との共創プロジェクト「GREEN LEADERSHIP CLUB」の推進	—	—	—	○	—	—	—	—	—
add-0-14	ヨコハマ未来創造会議との連携	—	—	—	○	—	—	—	—	—
add-0-15	大学共創フォーラムの開催	—	—	—	○	—	—	—	—	—
add-0-16	教育プログラム コンセプトブックの活用	○	—	—	○	—	—	—	—	—
add-0-19	主催者展示を通じた情報発信	○	—	—	—	—	—	—	—	—
add-0-20	公式参加者（国・国際機関）の出展を通じた情報発信	○	—	—	—	—	—	—	—	—
add-0-21	花・緑出展を通じた情報発信	○	—	—	—	—	—	—	—	—
add-0-22	Village 出展を通じた情報発信	○	—	—	—	—	—	—	—	—
add-0-23	グリーンインフラの情報発信	○	—	—	—	—	—	—	—	—
add-1-1	ネイチャーポジティブの実現に向けた取組に関する情報発信	○	○	○	○	○	○	○	○	○
add-1-2	参加ガイドラインの策定・推進	—	○	—	—	—	○	—	—	—
add-1-3	廃棄物の適正処理等に関するガイドラインの策定・周知	—	○	—	—	—	○	—	○	—
add-1-4	ボランティア・運営スタッフに向けた研修	—	—	○	—	—	○	—	—	○

ID	アクション	主な対象者								
		来場者	出展者等	ボランティア	市民・地域社会	NPO・NGO	事業者	有識者等	政府・自治体	協会職員・運営スタッフ等
add-1-5	テーマ催事を通じた情報発信	○	—	—	—	—	—	—	—	—
add-1-6	ダイバーシティ & インクルージョンに関する情報発信	○	—	—	○	—	—	○	○	○
add-1-7	市民参加（共創）プログラム	○	○	—	—	—	—	—	—	—
add-1-8	オンライン学習プログラム	○	○	○	○	○	○	○	○	○

2.2 ガントチャート

「2.1 アクション」で設定した、各アクションの実施スケジュールをガントチャートで記載する。

ID	アクション	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
2-1-2	漏水消費量の削減対策の実施						
3-1-2	温室効果ガスの削減対策の実施						
4-2-2	エネルギー使用量の削減対策の実施						
5-1-2	工事に関するガイドライン等の策定・推進						
7-3-3	持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用						
9-3-1	アクセシビリティ・ガイドラインの策定・推進						
10-1-3	海外からの参加者（公式参加者）への各種規則・ガイドライン等の策定・周知						
11-1-2	飲食に関するガイドライン等の策定・推進						
11-3-3	ISO20121 の認証取得・運用						
add-0-1	協会職員への研修の実施						
add-0-2	資源循環の取組の推進						
add-0-11	開催 1000 日前イベントの実施						
add-0-12	県立横浜瀬谷高等学校等による「フラワーロードプロジェクト」との連携						
add-0-13	県立農業高校との共創プロジェクト「GREEN LEADERSHIP CLUB」の推進						
add-0-14	ヨコハマ未来創造会議との連携						
add-0-15	大学共創フォーラムの開催						
add-0-16	教育プログラム コンセプトブックの活用						
add-0-19	主催者展示を通じた情報発信						
add-0-20	公式参加者（国・国際機関）の出展を通じた情報発信						
add-0-21	花・緑出展を通じた情報発信						
add-0-22	Village 出展を通じた情報発信						
add-0-23	グリーンインフラの情報発信						
add-1-1	ネイチャーポジティブの実現に向けた取組に関する情報発信						
add-1-2	参加ガイドラインの策定・推進						
add-1-3	廃棄物の適正処理等に関するガイドラインの策定・周知						
add-1-4	ボランティア・運営スタッフに向けた研修						
add-1-5	テーマ催事を通じた情報発信						
add-1-6	ダイバーシティ & インクルージョンに関する情報発信						
add-1-7	市民参加（共創）プログラム						
add-1-8	オンライン学習プログラム						

3 評価

「2 実施計画」に記載したアクションのうち、教育計画の策定及び更新時点で実施したアクションについて、日程、実施人数、振り返り（良い点、改善点）の評価を記載する。

記載項目	概要
日程	アクションを実施した日程
実施人数	アクションを実施した対象人数
振り返り（良い点、改善点）	アクションを実施した振り返り（良い点、改善点）

ID	アクション	日程	実施人数	振り返り（良い点、改善点）	更新
3-1-2	温室効果ガスの削減対策の実施	・サステナビリティ戦略・実施計画を策定：2024年3月 ・準備、開催、撤去の各期間に対策を実施	未算定	・本園芸博の脱炭素化に向けて、削減対策を検討、実施中	
4-2-2	エネルギー使用量の削減対策の実施	・サステナビリティ戦略・実施計画を策定：2024年3月 ・準備、開催、撤去の各期間に対策を実施	未算定	・本園芸博の省エネに向けて、削減対策を検討、実施中	
5-1-2	工事にに関するガイドライン等の策定・推進	・ガイドラインを策定：2025年3月 ・準備、開催、撤去の各期間に対策を実施	未算定	・工事にに関する周辺への影響低減に向け、ガイドラインを策定し、対策を実施	○
7-3-3	持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用	・調達コードの策定、運用の開始：2024年1月 ・通報受付窓口の設置：2024年10月	未算定	・大規模な工事や出展等の公募前に調達コードを策定できた ・説明会等での周知・普及等を通じて、調達コードを多くの関係者にご理解いただき、遵守を推進する	
9-3-1	アクセシビリティ・ガイドラインの策定・推進	・検討会の開催：2024年度 ・アクセシビリティ・ガイドラインの策定：2025年3月	未算定	・検討会を開催し、学識経験者や当事者等の意見を踏まえたガイドラインを策定した。	○
10-1-3	海外からの参加者（公式参加者）への各種規則・ガイドライン等の策定・周知	・一般規則の策定：2022年11月 BIE 承認 ・特別規則の策定：2023年6月以降 BIE 承認 ・2026年6月の BIE 総会にてすべて正式承認予定	未算定	・各種規則・ガイドライン等を策定・周知し、海外からの参加者（公式参加者）に適切に情報提供できている	○
11-1-2	飲食に関するガイドライン等の策定・推進	・ガイドライン等の策定：2026年度	未算定	・ガイドラインの策定を進めている	○

ID	アクション	日程	実施人数	振り返り（良い点、改善点）	更新
add-0-1	協会職員への研修の実施	・転入者研修：職員着任時	未算定	・協会の転入者に対して、サステナビリティを含む研修を実施した	
add-0-2	資源循環の取組の推進	・サステナビリティ戦略・実施計画を策定：2024年3月 ・資源循環の考え方を策定：2025年3月 ・準備、開催、撤去の各期間に対策を実施	未算定	・サステナビリティ戦略等の内容を踏まえ、資源循環の検討方針や対策、目標等を定めた「資源循環の考え方」を策定	○
add-0-11	開催 1000 日前イベントの実施	・イベント実施：2024年6月22-23日	来場者数：約3万人	・約3万人に来場いただき、本園芸博の機運醸成を図った	
add-0-12	県立横浜瀬谷高等学校等による「フラワーロードプロジェクト」との連携	・第5回プロジェクト：2023年12月10日 ・開催 1000 日前 記者発表会での活動の紹介：2024年6月22日 ・2025年5月10日/12月13日（ハマロード・サポーター制度活用清掃・植栽）	第5回プロジェクト：約250人	・地元の高校等による市民参加の活動を通じて、機運醸成を図った	○
add-0-13	県立農業高校との共創プロジェクト「GREEN LEADERSHIP CLUB」の推進	・CLUBの立ち上げ：2023年12月8日 ・プレゼン発表会の開催：2024年6月17日 ・かわさきフェアとの連携・出展：2024年10月19日～11月17日 ・出展計画ワーキングの開催：2025年12月12日 ・GREEN×EXPO 2027 本番での庭園出展：2027年3月19日～9月26日	高校生メンバー：75人（2025年度）	・各学校の生徒によるプレゼンテーション、協会の幹部や職員との意見交換ができた ・フェアと連携、出展し、本園芸博の機運醸成を図った ・生徒同士の意見交換により、出展計画のブラッシュアップができた	○
add-0-14	ヨコハマ未来創造会議との連携	・キックオフイベントの開催：2023年12月10日 ・本格始動フラッグアップイベントの開催：2024年7月30日 ・中間発表会の開催：2024年10月8日 ・ワークショップの開催：月1回	ヨコハマ未来創造会議メンバー：約120人	・若者たちが主体的・自発的に分科会活動に取り組んでおり、応援の輪が広がっている	
add-0-15	大学共創フォーラムの開催	・フォーラムの開催：2024年5月31日、6月5日	参加者数：29大学、48人	・フォーラムの開催を通じて、大学の参加・連携等について、ご理解いただいた	
add-0-16	教育プログラム コンセプトブックの活用	・コンセプトブックの公表：2024年11月	未算定	・コンセプトブックを公表し、児童・生徒の探究学習の機会を提供中	○

ID	アクション	日程	実施人数	振り返り（良い点、改善点）	更新
add-1-1	ネイチャーポジティブの実現に向けた取組に関する情報発信	・大阪・関西万博会場にて、ネイチャーポジティブに関するトークイベントに登壇：2025 年 9 月 20 日 ・気候変動枠組条約 COP30(ブラジル・ペレン) にてサイドイベント実施：2025 年 11 月 15 日 ・IGES 主催のネイチャーポジティブセミナーに登壇：2026 年 1 月 28 日	未算定	・様々な機会を通じて、国内外へ向けた発信ができた。	○
add-1-2	参加ガイドラインの策定・推進	・2023 年度：2 本 ・2024 年度：2 本 ・2025 年度：12 本 ※随時更新し発出する性質のため、初出時期を記載。	未算定	・関係機関と調整のうえ参加ガイドラインを策定し、主に公式参加者の出展準備の進捗にあわせて、各出展者形態向けページや説明会の機会を通じて、情報発信した。	○
add-1-6	ダイバーシティ&インクルージョンに関する情報発信	・2026 年 3 月 4 日「国際女性デー」にあわせたイベント	約 150 名	・メディアでの取り上げもあり、内外への発信力強化に繋がっている	○